

酷暑の聖岳

(報告) M. T

◎日程：2018年7月14日～15日

◎メンバー：会員3名 (F, M. S, M. T)

7月半ばに西日本に大きな被害をもたらした梅雨末期の集中豪雨は、南アルプス南部の山でも濁流を引き起こしていた。私たちは少し贅沢して、登山口となる易老渡までタクシーを使う予定だが、道が不通になっているという。出発前日の夕方にやっと登山当日開通の連絡をもらった。連休を前に飯田市が復旧を急いでくれたのだろうか。おかげで予定通り東京を発つことができた。

1日目は移動日。南アルプスの北側を大きく迂回しながら中央道をひた走る。この三連休は猛暑の予報だったが、私たちは一足早く蒸し暑い東京を抜け出したことになる。といっても目的地の飯田市の予想最高気温も38度となっていたが。



<下栗の里の遠景>→

途中、下栗の里に立ち寄る。標高800-1000mの斜面のうねった道に沿って家や畑がのどかに点在する景勝地だ。集落を見下ろす展望台で写真を撮りパチリ。下る途中で命水一本木と書かれた冷たい湧水をたっぷりと汲んで、翌日以降の登山に備えた。

翌日2時半起床、4時にタクシーが迎えに来た。車が山の中に入るにつれ、道をふさいでいたであろう落石や流木を整理したり、でこぼこの路を整えたりして、急いで復旧してくれたことがわかるようになってきた。

途中の芝沢ゲートの駐車場は満車。関東・関西・北陸など、実にさまざまなナンバープレートが並んでいる。多くは夏山スタートの三連休に気合を入れて、前日の夕方から夜中までずっと運転してきたのだ。こちらが気が引き締まる。易老渡までの徒歩1時間半は、自転車を引きながら歩く登山者がたくさんいた。登山口から駐車場までが長いので、帰りは自転車にまたがって車まで下るらしい。少しラクになることを願いつつ狙ったヤマは逃

さない、山好きの楽しい工夫と執念を感じて心が浮き立った。

5時過ぎ、易老渡に到着。準備体操などして5時22分出発。本格的な登山口となる便ヶ島で、小3娘とパパのコンビに出会う。周りの大人にすごいねーと褒められ、娘もじもじ、パパにここ。出発前のがんばるぞポーズを撮って、元気よく山に入っていた。他の登山者も次々に山に消え、我々も登山道に入った。

しばらくは爽やかな森を横目に、大雨で崩れた土砂を乗り越えながらの歩きだ。道々、美しい滝に出会う。西沢渡の渡渉ポイントは、3人までしか乗れない手動ゴンドラで渡る。登山者同士で協力し合ってロープを引くが、かなり重い。息が上がる。沢を渡れば、標高約2400mの分岐までずっと急登だ。高度差はおよそ1400m。



<西沢渡の手動ゴンドラ>

深い森の中の辛い急坂だ。同じペースの他の登山者とは休憩ポイントで抜きつ抜かれつ。たまにテントを入れた大きな荷物を背負った健脚組が、あっという間に追い抜いて行く。暑さに備え水をたっぷり持ってきたこともあり荷物が重い。扇子で仰ぎながら登るが、風がほとんど通らず暑い。

森の中は大きな倒木が多く、その上に苔が生え木が芽吹いている。大きな木が倒れるときはどんな音がするのだろうか。森の自然更新のすさまじさを感じる。途中、目印となるテープをつけた木が倒れてしまい、どちらに向かえばいいのか、すぐにはわからない場所もあった。

登るにつれ、道には赤い石が増えてくる。考えたら赤石岳はすぐ隣だもの、赤石山脈の懐に入っているのだと実感した。

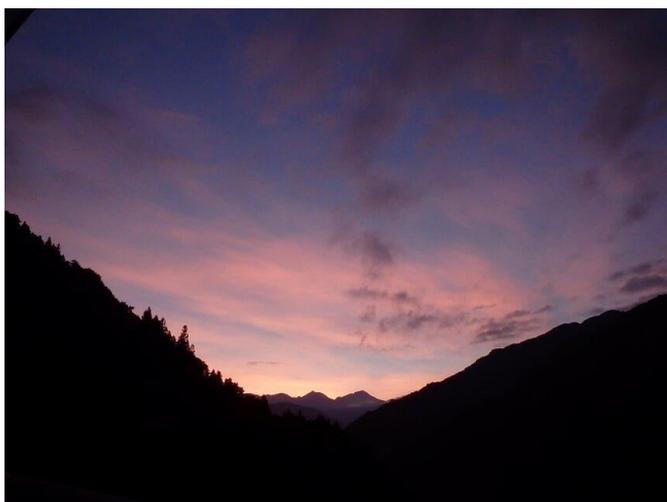
易老渡を出て7時間。急に視界が開け、薊畑の分岐に着いた。ちょっと腰を掛けられる場所も作ってあって、荷物を下してはひとつ息を吐いて休憩する。視線を上げると上河内岳から茶臼岳への稜線が見渡せる。やっと森を抜けたんだ！

リーダーは今日のうちに山頂まで行くことも考えていたのだが、3人ともすっかり疲れてしまい、全員一致でこのまま小屋に入ることにした。

薊畑から小屋のある聖平に下る道はお花畑だ。美しいシラビソの木がポツリポツリと立

つ草原の斜面がハクサンフウロやシナノキンバイ、ニッコウキスゲで彩られている。途中で先の親子とすれ違った。これから山頂アタックとのこと。雲が湧いてきているのが心配と言いつつ、娘は空身で元気よく登っていく。天気が持つといいね。

<朝焼け 策ヶ岳方面>→



小屋は聖平の木道を歩いてすぐ

の所にあった。荷物を置いたら、まずは宿泊者サービスのフルーツポンチ！疲れた体に甘酸っぱいフルーツとシロップが沁み込む。ありがたし。この小屋は更衣室（兼倉庫）もあるし、汗で濡れた服を掛けるハンガーも

たくさんある。トイレは水洗で客が汚さない限り清潔、テ場所は小屋の目の前できれいに整備してあるし、水もこの時期は汲み放題、食事もおいしい。接客はなぜか全員男性、対応爽やか。冷やした越冬ビールが半額（在庫処分）と、味にこだわらない酒飲みには更に幸せな時期でもあった。

←<聖岳山頂>



翌朝3時起床、外は半袖でも寒くないくらい。山の上も暑いのだ。4時過ぎに出発。ライトをつけて薊畑の分岐まで登る。ここで荷物をデポしていざ山頂へ。

森は霧の中だ。途中、かわいい花があちこちに咲いていた。ようやく森林限界に来たと思ったら、雲の上のピーカンの稜線に飛び出した。一面の雲海が美しい。富士山の影が黒く浮かんでいる。

<雲海と富士遠景>



間もなく小聖岳。兎岳がよく見える。切れ落ちた崖を左右に見ながら花を楽しみつつ進む。高度を上げるにつれ、周囲の山々が姿を現してくる。

<奥聖岳への稜線>→

6時52分、聖岳（前聖）山頂到着。北に目を向ければ目の前に大きな赤石岳、その向こうに荒川前岳が少しだけ頭をのぞかせている。仙丈ヶ岳もよく見える。南アルプス南部に来たのは初めてだ。北部からははるか遠くに感じた山々が目の前にあった。西には中央・北アルプス。白山までくっきりと見えた。



<ライチョウ>



「聖に来たら、奥聖まで行かないと意味がないんだ」というリーダーに促され、もう少し進む。ここは素晴らしいお花畑だった。チングルマ、コイワカガミが花盛り。「雷鳥！雷鳥！」と言ってリーダーが急に歩みを止める。4羽のひなを見守りながら親鳥がゆっくりと移動する。やがてハイマツの茂みに姿を消した。

7時30分、奥聖岳到着。一見行き止まりに見える高台の眺望ポイントだ。前聖に戻る途中、茂みの中から「クー、クー」

という雷鳥の声が聞こえた。

8時過ぎに下山開始。これから約2000mを一気に下る厳しい道のりとなる。約1時間半で薊畑に到着。荷造りと腹ごしらえをして、また森の中へ。

<奥聖岳山頂>→

ひたすら下る。ところどころ小休止を入れるもだんだん辛くなってくる。暑いのと荷物が重いので、水をでき



るだけ飲む。しかしいくら飲んでも荷が軽くなる。飲んだ水がそのまま汗となってザックに浸み込んでいるのか？途中から膝が笑い出し、ついには太腿がプルプルと震えだした。急坂なのに、きちんと足を下ろせるか不安で少し怖い。

山頂を下り始めて5時間50分。ついに西沢渡が見えてきた。急坂はここまで。しかし我々3人以外は同じペースで下る人がいない。つまりこの重いゴンドラを3人で引いて渡るしかない。対岸のゴンドラをこちらに引き戻し、声を合わせながら渾身の力でロープを引く。10分後、ようやく渡り切った。うーむ。聖は脚力だけでなく、綱引きのできる総合的な体力と忍耐力が必要な山なのであった。川を渡渉する人もいようだが、平日に一人で登るのは、よくよく考えた方がいいです。

へろへろになりながら、淡々と崩れた土砂を乗り越え、便ヶ島に到着。易老渡まであと30分。途中、自転車でさっそうと追い抜いていく人がいた。

トンネルを抜けたら迎えのタクシーの運転手さんがいた。約束の時間の15分前だった。行動時間は休憩も含めて1日目7時間45分、2日目11時間42分。20kmちょっとの距離だが、途切れることのない急坂と暑さできつい道のりだった。しかし、なかなか行けない南の南の三千メートル峰。貴重な機会だった。ご同行くださったお二人に深く感謝。

<コースタイム>

7/14 5:22 易老渡-6:07 便ヶ島-7:00-7:14 西沢渡-9:39 1800m-10:25 2000m-10:37-10:53 苔平-11:40 2200m-12:23-12:32 薊畑-13:07 聖平小屋

7/15 4:03 聖平小屋-4:31-4:41 薊畑-5:40-5:45 小聖岳-6:52-7:12 聖岳（前聖）-7:30-7:35 奥聖岳-7:58-8:05 聖岳（前聖）-8:58 小聖岳-9:42-10:08 薊畑-10:38 2200m-11:29 2000m-12:10 1800m-13:55-14:06 西沢渡-14:57-15:12 便ヶ島-15:45 易老渡